

# ～ルーマニア ホストタウン ムサシノ～ モモイロペリカン通信



Spring

2020/ 春号



## わたしの ルーマニア

ルーマニア×武蔵野×ヒト

### 「垣根をこえるアート」

アーティスト

アンドレア・アレクサン德拉・ペテルフィさん

市内でのリサーチ風景



デミーでグラフィックデザインを学ぶ。現在はロッテルダムにて修士課程。写真や彫刻、グラフィックやインスタレーション作品など個展やグループ展を数多く行う。

アンドレアさんは、ホストタウン事業の一環として行われた“アーティスト・イン・レジデンス”（芸術制作を行う人物を一定期間招き、滞在しながらの作品制作を支援する事業）プログラムで武蔵野市が招聘したルーマニアの現代アーティスト。30人ほどの応募者の中から選ばれて日本にやってきました。2ヶ月間武蔵野市に滞在し、市民と交流しながらリサーチや制作を行いました。

アンドレアさんは、日常の中にある普遍的な情景を切り取ります。そこにはたとえ国や文化が違っても、同じ人間として生きる工夫や考えることの共通性が表れているそうです。今回の作品でも武蔵野市の写真の中にルーマニアの風景がとけ込み、国や民族に垣根はないことを感じさせてくれます。

将来は、ルーマニアのアートの発展のため、芸術家が活躍できるプラットフォームを作れたら、と語っていました。

#### アンドレアさんが思うルーマニアの魅力とは？

—山も海もあり、様々な鳥や魚が集まるドナウ deltaなど自然が豊かで見どころがたくさんあること。自然だけでなく、街では歴史や文化に触れることができ、ブカレストではアートやポップカルチャーも楽しめます。

#### ● インタビュー後記 ●

自転車でどこへでも乗りつけ、すっかり武蔵野市に馴染んでいたアンドレアさん。食べることも大好きで、お寿司やラーメンからたい焼きまで日本食を存分に堪能したようです。お気に入りは「うどん」だそう。日本での体験を糧にますます活躍されることをお祈りしています。（多文化共生・交流課 稲垣）

#### ルーマニアと武蔵野市のこれからに望むことは？

—この体験を通じて視野を広げることができました。今回の私や市民団のように、若い人たちにとって実際に日本に来て異文化を体験することは、かけがえのない経験です。ぜひこれからも交流を続けていってほしいです。

## アンドレアさんへ インタビュー

Interview

## 告知

ルーマニアからソリストが来訪します。曾我大介指揮、武蔵野市民交響楽団、総勢240名で結成されたむさしの友好と平和の第九2020合唱団と共に演を果たし2020年を盛り上げます。

クリスティーナ・ラドゥ(ソプラノ) Cristina Radu

クリスティーナ・コアツ(メゾソプラノ) Cristina Coatu



Cristina Radu

Cristina Coatu

5月24日(日)

6月28日(日)

三鷹駅北口にて、『ホストタウンムサシノ直前ルーマニア応援イベント』を開催予定！

ルーマニアに関する展示・飲食ブース出展、ステージ企画を実施予定。6月28日は三鷹駅北口に集まれ！



## JOIN&SUPPORT

ホストタウン事業に参加・協力しよう！

### ルーマニアホストタウンムサシノ サポーター登録

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、ホストタウンとしてルーマニアを応援し、一緒に地域を盛り上げる仲間を募集しています。文化やスポーツを通じた感動や交流と一緒に体験しませんか？サポーターに登録すると、各種イベント情報が登録したメールアドレスに届きます。

サポーター登録は  
コチラからサポート登録、募金方法については、  
武蔵野市多文化共生・交流課までご連絡ください。武蔵野市多文化共生・交流課内 ルーマニアホストタウン推進実行委員会事務局  
TEL: 0422-60-1806 Mail: SEC-KORYU@city.musashino.lg.jp

ルーマニア  
ROMANIA MUSASHINO

## ルーマニア・ブラショフ市から 4名の文化交流市民団が来訪しました



2020年1月24日から29日まで1週間の日程で、友好都市ブラショフ市から4名の市民団が日本文化の体験と文化交流を目的として武蔵野市を来訪しました。日本武蔵野センターで日本語を学ぶ学生3人とブラショフ市が公募した1名が選ばれ来訪が実現しました。学ぶことへの目的意識が明確で志の高い4名は、ホームステイを通して日本の生活文化を体験し、市内の小学校でルーマニア文化を伝え、イベントではルーマニアの紹介やホストタウンのPRを行ななど盛りだくさんの予定をこなしました。滞在中はたくさんの人々と出会い、日本文化の一端に触れ、とても充実した時間を過ごせたようです。

今後この経験を生かしてブラショフ市と武蔵野市の架け橋となってくれることを期待します。

### 市民団に質問！

Q1：ルーマニアとの違いで一番驚いたことは何ですか？

Q2：日本で食べた一番お気に入りの食べ物は何でしたか？

Q3：日本の家庭で過ごしていかがでしたか？

Q4：一番感動したことは何ですか？

Q5：自分用のお土産は何を買いましたか？

Suzana  
スザナ

A2：醤油とんこつのラーメンと、秋葉原の屋台で食べた和牛の串焼き

A5：100円ショップでたくさんのお菓子と調味料など。浅草でビンテージ着物の羽織も買いました。

Miruna  
ミルナ

A4：武蔵野市役所に到着した時、職員の皆さん建物の前で私たちを待っていてくださり、そのあとも丁寧で敬意を感じる歓迎を受け、感謝しきれません。

A5：ルーマニアでは漫画はとても高価なので、古本屋で12冊の漫画を買いました。

Luana  
ルアナ

A1：買い物をしてレジでかごを特定の場所に置くと、商品がすべて自動的にスキャンされること。そんなものを見たことがなかったので本当に驚きました！

A3：必要なものや困っていることがないか何度も確認してくれました。私たちはたくさん笑って夜遅くまでいろんなことを話しました。よく話題に上ったのはルーマニアと日本の違いです。彼女にまた会いたいです！



すべての回答を掲載しきれませんでしたが、皆さんホストファミリーを始め日本人の優しさや親切さに感動したようです。  
食べ物ではお寿司やうどんも人気でした。

# 「知ってみルーマニア！」

## ルーマニア人アーティストによる ホストタウンムサシノ滞在制作 作品展示・成果発表会

2020年1月6日から2月29日の期間、武藏野市の招聘によりルーマニア人アーティストのアンドレア・アレクサン德拉・ペテルフィさんが市内に滞在し作品制作を行いました。アンドレアさんは市内のコミセン等で作品を制作した後、2月21日から25日は武藏野プレイスギャラリーにて完成作品の展示を行い、24日には成果発表会を開催しました。



成果発表会では、2019年夏にルーマニアを訪れ現地アーティストのリサーチおよび映像制作を行った和田昌宏さんと、ゲストのスクリプカリウ落合安奈さんを含めたトークショーが行われ、集まった皆さんは作品の解説やアーティストたちの生の声に耳を傾けていました。アンドレアさんが展示した「Patterns」は、写真を印刷したトレーシングペーパーにブロック、ガラス、梱包バンドを組み合わせた立体作品を配置したもので、アンドレアさんによると「記憶の中にある風景のような手触りを表現しつつ、歩いて感じた街の様子を小さなスケールで再構築した」とのことです。参加者からは、ルーマニアの現在進行形のアートが体験できたという声が聞かれました。（4面にインタビュー）



昼と夕方で違う表情を見せる作品「Patterns」

## 成蹊大学ルーマニア交流プロジェクト 活動報告

### ブラショフ市民団 渋谷・原宿アテンド



1月28日(火)にブラショフ市民団の渋谷・原宿観光アテンドを行いました。当日はあいにくの天気でしたが、ルーマニアの文化や日本の習慣についてお互いに理解を深めることができました。初めは緊張してしまう交流できるのか不安でしたが、一緒にたこ焼きを食べたり買い物をしたりする中で自然と打ち解けることができたと思います。印象に残っているのは、かわいい雑貨をお土産として嬉しそうに買っていた様子です。私たちは、日本らしいお土産を買いたいと言われた際、和風などを思い浮かべていたため予想外でした。ルーマニアにはキャラクター雑貨やかわいいものが少ないため、このような雑貨がめずらしいのだそうです。市民団の方々の笑顔を見て、アテンドが上手くいってよかったです。また、交流をする中でルーマニアのことを知るだけでなく、原宿や渋谷の新しい魅力に気づかされる機会にもなりました。

## EVENT REPORT

## 東京2020オリンピック 聖火リレーがやって来る！



武藏野市役所正面玄関の壁面に東京2020オリンピック聖火リレーエンブレムの装飾をしています

7月17日(金)に武藏野市内をオリンピック聖火が走行します。ルートは、吉祥寺駅前はな子像から平和通りを出発し、五日市街道を西へ進み、市役所前から武藏野陸上競技場へ入ります。また、武藏野陸上競技場では、聖火の到着を祝う聖火リレーセレブレーションが開催されます。武藏野市は前回の1964年大会時にも都内で唯一聖火が一泊し、聖火祭を行った市でもあります。当日は武藏野市全体で聖火の到着をお祝いしましょう！



## ルーマニア・マニアへの道

その4

### ルーマニアの国技『オイナ』

今回はルーマニアの伝統的なスポーツである、オイナについて掘り下げます。

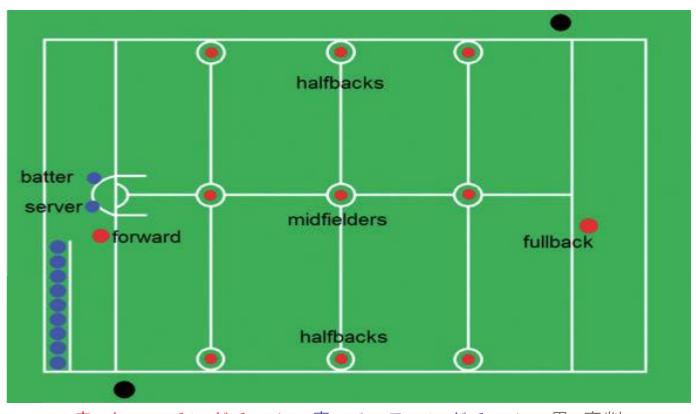
オイナはルーマニアの公式国技であり、その歴史は1364年までさかのぼります。公式のルールは1898年にスピル・ハレットというブカレスト大学の教授によって決めされました。フィールドは70m x 32mの長方形の芝生で通常は1チーム11人のプレーヤーで行います。バットの形もボールの大きさも野球そっくりですが、攻守ともに得点できることに野球との違いがあります。打撃側が「壘」を稼いでいる得点と、捕球側がドッジボール的に打者にヒットして入る得点があり、打撃側は打ったあとに、守備側からボールを当てられないよう走塁する必要があります。また、バッティングの距離によるボーナスポイントもあるため、野球の原型になったスポーツと言われることもあります。現在のルーマニアではサッカーが特に人気でオイナが盛んだとは言いづらいものの、大会等は行われており、このスポーツの歴史の長さがうかがえます。



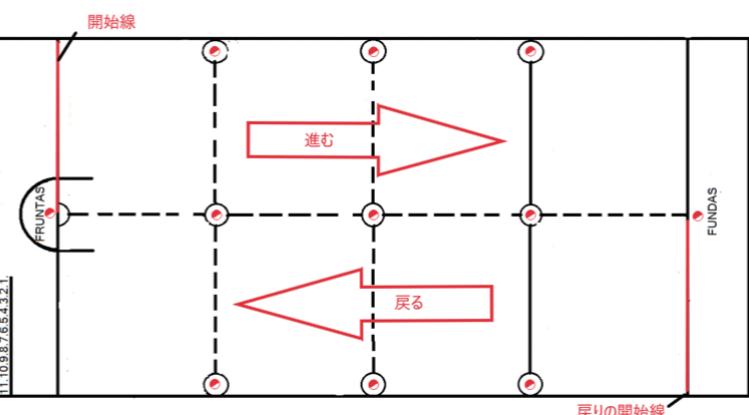
切手に描かれた  
オイナの様子



▲ バットと動物の毛が詰められた革のボールを使う



赤-キャッチングチーム 青-バッティングチーム 黒-審判



▲ バッティングの様子